

学校運営協議会 議事録

校名	府立豊島高等学校
校長名	浦山 聖

開催日時	令和4年11月18日(金)10:30~12:30
開催場所	府立豊島高等学校1階 校長室
出席者(委員)	家島会長、島本委員、安藤委員、大石委員、村井委員
出席者(学校)	浦山校長、坂口教頭、藤井事務長、田中首席
傍聴者	なし
協議資料	授業見学、スクールミッション(案)、進路指導部報告、学校行事等について
備考	なし

議題等(次第順)

- ・3つの授業を見学
- ・授業見学に係る協議
- ・スクールミッション(案)について
- ・進路指導部報告について
- ・第1回学校運営協議会以降の学校行事等について

協議内容・承認事項等(意見の概要)

- 授業見学について
- ・T-NETとのTeam Teaching授業では、学ばせたいことが生徒に伝わるように入り込み教員のサポートが必要で、T-NETにしかできないことをうまく引き出す授業前の連携が必要である。
 - ・T-NETの発音については、生徒たちがこれまでに学校で学んできたであろう発音と少し差異があるのではないかと気がなったが、すぐ一生懸命に授業をしていた。
 - ・グループワークを行う場合、グループづくりにもっと気配りや工夫が必要。また、机の配置を工夫して話しやすくするなど“場の作り方”にも少し工夫がほしい。4人グループを構成しているが、一部の班では、1人の生徒がコミュニケーションを取れていないことがあった。適度に声掛けをしたり、グループ構成に気配りが必要では。
 - ・授業に集中できず、横を向いている生徒に対しての指導をすべき。例えば、1学期は教員がグループ構成を行う。そのグループ構成はどのような意図でされたか、グループ内にはどんな役割が必要か、グループ構成を行う上でのコツを伝える。2学期以降はボトムアップ方式で生徒同士が話し合い、お互いの良さを引き出したり補い合えるようなグループ構成を考えさせる。2学期に行ったグループ活動をお互い評価し合うことで、3学期に向けてのグループ改変につなげてみてはどうか。
 - ・評価の観点を指導案に明記しているが、それに対する評価基準であるルーブリックを作成し明確に生徒に示すことで、自分や他者の発表に対する評価・改善がしやすくなるのではないかと。
 - ・グループでの学習で教え合いができていて、とても良いと思った。先生が教室全体を見ていて、質問に丁寧に答えられているところもよかった。生徒が授業に集中しているように見えた。
 - ・グループ編成を行っているが、習熟度に差があり、課題ができていない生徒とできていない生徒がいる。グループにするならできていない人を教役にするなど、もっと役割を明確にしたグループ作りの工夫をしてみようか？ 退屈そうにしていたり、寝ようとする生徒もいた。個別最適な学習となるような工夫がほしい。
 - ・今年度から高等学校は観点別評価となったが、中学校は先行して行っている。教員が学期末の評価に時間がかかっている様子だが、観点別評価の良さを引き出せるよう、授業ごとに何に重きを置いて評価するかを話し合い、必要に応じて3観点それぞれの評価割合を変えてみることも必要である。中学校では授業プリントに3観点をどの観点を評価しているかを明記している、生徒にとって何を学んでいるかを理解しやすくしてよい。
 - ・中学校でも英語コミュニケーションの授業では英語に対する興味の有無やヒアリング能力等に差があり、40人に対する一斉授業では個別の習熟度に応じた授業展開が難しい。箕面市ではALTが各学校に3名配置されており、ALT1人に対して教員が2名入り込んで3名体制で授業を行っている。机間巡視で個別対応することで、習熟度の差があっても、個に応じた指導ができるようにしている。
 - ・教員が黒板に板書するのではなくスクリーンに明記されるので時間短縮になり、文字も非常に見やすく、教員の話聞くことに集中しやすかった。
- スクールミッションについて
- ・スクールミッションを策定するにあたって、まず教員同士でブレインストーミングを行い、卒業後どういった生徒を育てたいかを話し合っただけで、学校内で意見を共有できるという意味でよかった。教員だけでなく、保護者や地域の方たちにも、学校に何を期待しているかを同様のブレインストーミングで作ってもらい、それを見せ合い統合すれば、新しい発見があるのではないかと。それをもとにシンプルで伝わりやすい方針を作ってはどうか。
 - ・教員や保護者、地域の方たちの期待を生徒に伝え、生徒達自身に少し背伸びをしたキャッチフレーズやスローガンを考えさせてみてほしい。
 - ・大学でもワークショップで、卒業後に求められる人材像について、企業、教員、学生で話し合っている。自ら学ばない学生が増えてきているので、多くの企業で、1対1ミーティングで個に応じた課題を見つける取り組みを行っている。
 - ・浮かび上がる課題としては、異世代や異文化とのコミュニケーション能力の低下。学生は同年代とコミュニケーションを取れていることで、異世代及び異文化コミュニケーションを取れると思っている。
 - ・大学で教員をしていて学生にとって大事と考えることは、知識の習得だけでなく、コミュニケーション能力の向上と情報収集を個別最適化し、うまく活用できる能力を学ぶことである。
 - ・概ね承認していただきました。
- 進路指導部報告
- ・後日資料に誤りがあることがわかり、訂正を行った。
- 第1回学校運営協議会以降の学校行事等について
- ・新型コロナウイルスの感染状況報告
 - ・2年生(47期)の屋久島等への修学旅行及び文化祭の様子を、スライドを用いて報告した。ともに好評を博した。

次回の会議日程

日時	令和5年2月を予定
会場	府立豊島高等学校1階 会議室(予定)